

## 秋田弁噺

私の秋田弁ライフ  
(7)

平成9年5月に山口貯水池堤体強化工事に所長として着任しました。山口貯水池（狭山湖）は多摩湖と共に東京都の水がめとして、また、その周辺地域は首都圏近郊の貴重な自然空間として長年人々に親しまれています。大正5年から昭和9年にかけて当時の先端技術により築造された大規模なアースダム（土砂などを使用して造ったダム）で完成以来70年余り経過していました。

阪神淡路大震災を契機に、東京都水道局では地震に対してより詳しく調査した結果、大地震が発生した場合、ダムの機能には影響はないものの、堤頂部に1m強の沈下が生じることが分かりました。堤体の直下には民家が密集し市街化が進行している現状などから耐震性をより一層強化させるため、工事を実施することにしたのです。

工事費は準備工事・本工事合わせて約150億円で。着任早々地元説明会の説明資料作りとなり、地元公民館で行うことになりました。工事の安全と自然環境に配慮した施工計画を作成し、水道局職員と共に席につきました。幸い地元山口地区に聖霊高校出身の私の従姉妹が住んでいましたので、友人、知人に声を掛けてもらい20名ほど出席していただきました。従姉妹には質問の時には「私達地元住民の安心・安全のため早期の完成を目指し頑張ってください！私達は全面的に協力いたしますので宜しくお願い申し上げます」の原稿を渡し本番に臨みました。打ち合わせ通り盛大な拍手をもって無事説明会を終わりました。従姉妹からは「おめだば子供のころから口達者だったども、益々磨きかかったねが、本当に分かりやすい話だった！」と褒められました。

平成10年1月から準備工事として、ダム上流部を作業基地にするため鋼矢板で二重締め切りを造りました。この地域には絶滅危惧種や希少動植物が数多く生息しているため、これらの保護のために工事中でも出来る限り湖面を多く残そうと上流の二股に分かれている部分を鋼矢板で締め切り、189万haのうち30万haの残存水面を確保しました。植物ではミズナラ・カンアオイ等4種、哺乳類ではニホンリス・ムササビ等4種、鳥類ではオオタカ・カンムリカイツブリ・チョウゲンボウ等22種、両生類ではトウキョウサンショウウオ・イモリの2種類、陸上昆虫類ではトウヨウモンカゲロウ・ムカシヤンマ・ショウリョウバッタモドキ等22種、底生動物としてムカエビ・ヘビトンボ等6種、魚類ではヤリタナゴ・ホトケドジョウ等4種と、とても覚えきれません。そこで手帳サイズのレッドデータブックをカラー写真入りで作り、作業員120名全員に渡して、判らないものに出くわしたら直ぐに事務所に連絡しろ！と指示し、こちらも一生懸命勉強しました。近くに「トトロの森」の事務所がありましたのでグッズや本を買ったり寄付をしたりして仲良くなり、オオタカ保護の先生を顧問に迎え勉強しました。締め切りの中には大きな鯉やフナや亀やスッポンがいて、それらを放流するのも大仕事でした。水道局の事務所では「地主所長がこのごろやけに元気なのはスッポンを食べているからではないか」と評判になり、若い社員が聞かれたということでした。

月に一度社員全員が捕虫網と虫籠を持ってダムの斜面を駆け回り、上流の森に放しに行き、童心に帰る網を振り回しました。「所長これも業務ですか？」の質問には、西武球場近くの焼き鳥やで御苦勞を盛大にやり「次回はいつですか？」と恒例行事となりました。上流部の締め切り工事では、この付近にオオタカが生息していることが判明しました。湖面に浮かぶ台船の上から長い鋼矢板を打ち込む工事は、オオタカのオスが大空を舞いメスにプロポーズする求愛活動の邪魔にならないようにと、本来日中に行う作業を夜間に行う計画に変更しました。夜間工事の成果が見事カップルが誕生し、4月には抱卵が始まり、5月の中には3羽のヒナが誕生し、6月の末には枝移りが始まりました。私は毎日オオタカの生息状況を観測し、密漁者からヒナを守るため警備員を配置したり、大群のカラスにいじめられないか心配でまるで親鳥になっていました。

工事は重機作業が多く作業員も出稼ぎの人はいません、一抹の寂しさはありますがこれも時代の流れ、経済成長の証しと思うものの、当時の世話役さん達の訃報を聞くたびに昔がなつかしく、古き良き時代の土方人生に感謝でした。船の上での鋼矢板打ち作業は特殊な技術が必要で、そこで登場したのが自称村上水軍の末裔達と名乗る10人の集団です。日本全国の海工事を手掛けたその道のベテラン達です。彼らが若いころ秋田の土崎港で半年程仕事をしたとのことで、私と話があい、休日前の夜は所沢で飲み会となりました。「秋田おばこは最高でしたよ、肌は白くてしがみついたら離さなくて何回も天国に行ったよ！性格も大らかで明るく、川反ほど良い所は無かったよ！」「そ



か！秋田はそんなに良かったか！」と浪曲の森の石松、千石船よろしく「もう一杯グーとやれ！」と楽しく宴会が盛り上がるのでした。仕事が終わってから手紙や電話をいただき、伊予ミカンやフルーツマトを送ってくれる優しい職人さんたちでした。

平成12年6月3・4日に「水道週間行事」として「山口貯水池（狭山湖）湖底見学会」を実施しました。地上から30m下の湖底をマイクロバスで30分程散策するもので、2日間で1万人が見学に訪れました。昔立ち退かれた家族の方々は「もう一生見られないと思っていましたが、本当に懐かしく涙が出ました、本当にありがとうございました」と感謝のお言葉をいただきました。この見学会は読売新聞、毎日新聞にも掲載され週間新潮には「水を抜いた裸の狭山湖」と写真入りで大きく取り上げられました。

事務所の直ぐ上はラブホテルで、現場への行き帰り、このカップルは不倫かな、恋人同士かなとあれこれ推理する楽しみもありました。かみさんに地元対策でラブホテルに行ってみないかと誘いましたが馬鹿野郎と一喝されました。また、その上に従姉妹の知人が経営するレストランが有り、社員と家族は事務所の支払いで利用可能となりましたので大繁盛、大変感謝され、工事中の地元対策や行事にご尽力いただきました。

ダムの盛り立てに先立ち、ダムの天端の撤去に着手しました。戦争中爆弾による破壊を防ぐため、遠く多摩川から玉石を運び積み重ね、モルタルで固めた耐弾層がありました。同時に昭和9年に造られた欄干が現れました、モダンなたたずまいは西洋の城壁のように見え、当時の土木技術を伝える文化遺産として一部が保存されています。

「第6回建設ステーション元気アップコンテスト」では79件の中からの12件に入り表彰されました。またこの現場は快適職場の認定を受けると共に延べ労働時間135万時間の無事故無災害を達成しました。

平成14年7月1日から溜水試験を始め11月14日工事完成式典が石原慎太郎都知事の出席のもとテープカットが行われ、山口小学校のプラスバンドを先導に、天端道路の渡り初めがおこなわれました。

その後土木学会技術賞を頂き、全員で美味しい酒を飲み苦勞話に花が咲き、久しぶりの私のスケベ話に抱腹絶倒の祝勝会でした。

その後、私は支店営業部に配属になり、作業服を背広に変え、得意の口からでまかせトークでお得意様を廻り、それなりに活躍しました。

7年間に亘り「私の秋田弁ライフ」を掲載させていただきました、「金砂」編集委員の方々に衷心よりお礼申し上げます。

「金砂」と「金砂健児」の益々の発展を祈念し終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

## ◆記事

地主 勝己（昭和37年土木科卒）  
東京秋工会 副会長

## 秋田弁噺 私の秋田弁ライフ (7)



耐弾層撤去、基礎掘削を完了して盛立を開始/平成12年2月撮影



堤体強化工事完成/平成14年11月撮影



完成式 テープカット

The technical group which wrestles with the reproduction of natural environments  
Limited Liability Partnership Land Owner Office  
project management group office  
2-23-8 Tsurumaki, Tama-City Tokyo 206-0034, Japan  
japan TEL:+8142-371-3630



自然環境再生にとりくむ技術集団（プロジェクト マネジメント グループ）

有限責任事業組合 ランドオーナーオフィス

〒206-0034 東京都多摩市鶴牧2-23-8  
TEL 042-371-3630 FAX 042-371-3687

理事長 地主 勝己  
(昭和37年 土木科卒)

“乾杯!”からはじまる感動のひととき。

BANQUET / ACCOMMODATION / RESTAURANT  
宴会・会議・宿泊/レストラン



アルカディア市ヶ谷  
私学会館  
http://www.arcadia-jp.org  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25  
TEL 03-3261-9921 FAX 03-3261-7760



JR有楽町線(有楽町・新宿・南北線)市ヶ谷駅 徒歩2分